

令和7年度 奈良県教育長賞

水しぶきの裏側にある支え

奈良県立奈良高等学校 1年 蓮川 舞優

私は水泳部に所属しており、日々練習を頑張っています。自己ベストを更新した時の喜びや仲間と一緒に努力する時間、水の中で感じる静かな集中はかけがえのない時間です。けれど最近あることに気づきました。

「私たちがこうして思いきり泳げる環境って誰かの支えによって成り立っているのでは？と。」

そこで私は、水泳の大会などで利用している県の室内温水プールについて調べてみようと思いました。そうすると施設の建設費や維持費、人件費に至るまで、その多くが税金で賄われていると知りました。「当たり前のように使用していた場所」は実は多くの人による納税によって支えられていると知って驚くとともに深く考えさせられました。

税金というと道路や学校、病院などに使われるイメージだったのですがスポーツの世界にも大きく関わっています。スポーツ振興事業や各競技団体への補助金、学生アスリートへの支援などがあります。トップレベルの選手たちの海外遠征に行くときの費用、トレーニング環境の整備にも税金は使われています。こういった支援のおかげで誰もが夢に向かって挑戦できる環境があるのだと思います。

私がいつも何気なく使っているプールという環境が安全に整備されているからこそ私は水泳を通じて多くのことを学ぶことができています。つまり、私の努力の背景には見えないけど確かな「税の力」が存在しているのです。

税には「社会全体で支え合う仕組み」という大切な役割があります。税を納める人と税の恩恵を受ける人は必ずしも同じではないけどそれでいいのではないかと思います。誰かの納めた税金が今の私のような高校生の活動を支えてくれています。将来、私が社会人になって納税する側になったとき、そのお金が次世代の子供たちの学びやスポーツを支えていけるかもしれないのです。その循環こそが持続可能な社会の形だと感じます。

以前の私は税金について「大人が関わる難しい仕組み」くらいにしか考えてこなかったけれども練習環境を見つめ直すことによって税の意義が一気に身近なものに思えました。

税金とは私たちの未来や挑戦を静かに、しかし確かに、支えてくれているのです。社会の一員としての自覚をもって税に対する理解と感謝の気持ちを大切にしていきたいと強く思いました。